



NEWS

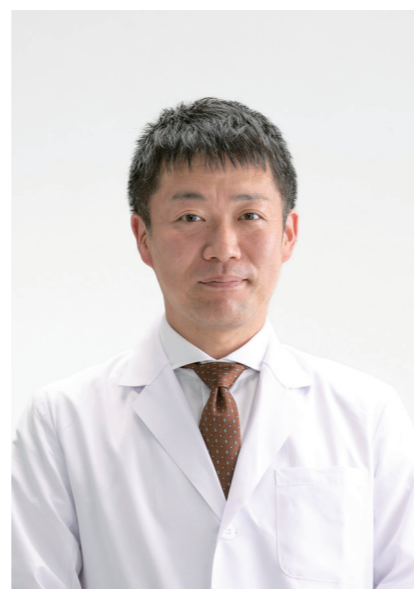
スポーツメディカルセンター センター長就任の挨拶

スポーツメディカルセンター センター長 かどわき まさる
門脇 俊

12月1日付けでスポーツメディカルセンターのセンター長を拝命しました門脇俊と申します。

島根県では2030年に国民スポーツ大会/全国障がい者スポーツ大会の開催を控え、選手強化の一環として医学的サポート体制の強化が望まれており、トップアスリートに適した高水準の医療を提供するために当センターが開設されました。このセンターでは、スポーツ医を中心にアスレティックトレーナー、管理栄養士、スポーツファーマシスト等の専門職が連携して診療に当たることで、スポーツ外傷・障害の治療のみならず、スポーツパフォーマンスや競技成績の向上を目指しています。

ハイレベルのアスリートを対象とするのはもちろんですが、競技レベルのスポーツに取り組む学生や社会人、女性アスリート、パラスポーツ選手、そしてスポーツ愛好家の一般市民の方々を含む幅広い患者さんまでご利用いただける体制を準備してまいります。今後は、スポーツに関連した心身の不調にお悩みの方のご利用も可能になるように致します。



お問い合わせ 整形外科 外来 TEL:0853-20-2385

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2月15日～3月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
12/1(金)~ 2/29(木)	令和5年度 第3回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
2/25(日) 13:30~15:30	ダウン症の方とご家族のためのお話し会	出雲保健所 Zoom同時配信※ハイブリッド形式	一般 医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床遺伝診療部

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



CONTENTS

表紙: 血液内科 教授 鈴木 律朗

中表紙

・臨床遺伝・ゲノム医療センター 教授就任のご挨拶
・病院医学教育センター 教授就任のご挨拶

裏表紙

・スポーツメディカルセンター
センター長就任の挨拶
・研修会・講演会・セミナー開催情報



臨床遺伝・ゲノム医療センター 教授就任のご挨拶

臨床遺伝・ゲノム医療センター 教授 やまもと ひろまさ
山本 寛斉

1月1日付けで臨床遺伝・ゲノム医療センター教授を拜命致しました、山本寛斉と申します。

私は岡山県津山市の出身で、2000年(平成12年)に岡山大学医学部を卒業後、岡山大学第二外科学教室(現 呼吸器・乳腺内分泌外科学教室)に入局致しました。関連施設での外科研修と大学院での学位研究の後に、2005年より米国テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンターのAdi Gazdar教授の研究室に留学し、肺癌のゲノム異常に関する基礎研究に従事致しました。2007年に帰国後は関連施設で呼吸器外科研修を行い、2011年からは岡山大学病院の教員として肺癌をはじめとする胸部悪性腫瘍を中心とした呼吸器外科の診療・教育・研究を行って参りました。肺癌では珍しい、家族性肺癌家系におけるHER2遺伝子の新規胚細胞バリエーションの同定に至る研究にも携わりました。



近年、様々な遺伝子解析技術の進歩により、臨床遺伝学やゲノム医療は大きく発展しておりますが、診療体制としては主治医をはじめ病理医・臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラー・看護師・薬剤師・臨床検査技師など、多職種が綿密に連携することが求められます。既に設置されておりました臨床遺伝診療部とがんゲノム医療センターを統合し、新たに設置された臨床遺伝・ゲノム医療センターを担当させて頂くことになりました。多くの診療科・部門と連携し、組織横断的に遺伝医療・ゲノム医療を進め、島根県・山陰の医療に貢献できるように精進致します。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

近年、様々な遺伝子解析技術の進歩により、臨床遺伝学やゲノム医療は大きく発展しておりますが、診療体制としては主治医をはじめ病理医・臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラー・看護師・薬剤師・臨床検査技師など、多職種が綿密に連携することが求められます。既に設置されておりました臨床遺伝診療部とがんゲノム医療センターを統合し、新たに設置された臨床遺伝・ゲノム医療センターを担当させて頂くことになりました。多くの診療科・部門と連携し、組織横断的に遺伝医療・ゲノム医療を進め、島根県・山陰の医療に貢献できるように精進致します。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

問い合わせ先 臨床遺伝・ゲノム医療センター TEL:0853-88-3053

病院医学教育センター 教授就任のご挨拶

病院医学教育センター 教授 ひろい なおき
廣井 直樹

1月1日付けで病院医学教育センターに着任いたしました廣井直樹と申します。

もともと内分泌代謝学を専攻しておりましたが、2013年以降、東邦大学医学部において医学教育専従として活動してまいりました。これから当院での医療者教育や学生教育に貢献できることに深く感謝するとともに、新たな挑戦ができることを楽しみにしております。

医療者教育では、多職種参加型の医療対話推進のためのコンフリクト・マネジメント講習会や医療倫理検討会などを継続して企画・運営してまいりました。また、学生教育においても教育プログラム全体の策定だけでなく、多職種連携を中心に置いたらせん型プロフェッショナルリズム・倫理といった人間性教育を実践していました。

現在の、学生を含めた医療者教育で求められているのは専門職としての深い理解と実践能力の修得だけでなく、多様な価値観の受容や公正性への配慮、多職種協働を推進する力であると考えています。当院だけでなく地域の医療機関で活躍する多くの方々と対話を深めつつ幅広い学びの場を作っていくと思います。

島根大学医学部と附属病院という新しい活動の場を通じて、島根大学発の医療者教育を全国に発信し、より質の高い教育の実現に向けて全力を尽くしていきたいと思っております。ぜひとも皆様のご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



問い合わせ先 病院医学教育センター TEL:0853-20-3077



ご報告

図1



高純度間葉系幹細胞(REC)による ミトコンドリア病の治療開発

再生医療センター 副センター長 たけした たけし 竹谷 健
まつざき ゆみ 生命科学講座 教授 松崎 有未

再生医療センターでは、患者さんの体外で人工的に培養した幹細胞などを、患者さんの体内に移植することで、損傷した臓器や組織を再生し、失われた人体機能を回復させる医療を行なっています。特に、生命科学講座 教授 松崎有未が開発した高純度間葉系幹細胞(REC)を用いた再生医療は世界でも島根大学を中心として行われています。

最近、このRECが治療法の確立していないミトコンドリア病に対して治療効果を示すことを明らかにしました(図1)。ミトコンドリア病では、エネルギー産生に重要な役割を果たすミトコンドリアに異常をきたすことで、脳ミトコンドリア脳筋症(MELAS)や、糖尿病、難聴、頭痛などを引き起こします。今回、小児科、解剖学講座(神経科学)、生命科学講座の共同研究で、REC由来の正常なミトコンドリアをMELASの患者さん由来iPS細胞から樹立した神経細胞に移入することによって神経細胞機能を回復させる細胞実験に成功しました。

今後、研究データを積み重ねて治験を行い、患者さんの治療薬として届けることができるように努力して参ります。



ご報告

児童虐待対応における 法医学教室と児童相談所の連携について

法医学講座 教授 たけした はるお 竹下 治男

児童虐待事案への対応における法医学との連携は、児童相談所における虐待の有無の判断において重要です。例えば、児童相談所が虐待による乳幼児頭部外傷事案の通告を受けて、受傷機転等に関し医学的な助言やセカンドオピニオン等の意見を求めることを求める場合があります。

当講座でも2006年から既に島根県青少年家庭課との委委託契約を基に、島根県医療的機能強化事業として、当院地域医療連携センターを窓口とし、島根県の各児童相談所からの虐待関連の相談依頼に対応させていただいております。

先般「児童福祉法等の一部を改正する法律」(令和4年法律第66号)による児童福祉法の改正により、同法第33条の3の2が新設され、法医学教室等が児童虐待対応において児童相談所と連携する機関であることを法令上明確にし、児童相談所が法医学教室に対し、児童虐待が疑われる児童の外傷に係る受傷機転や重症度等に関する意見を求めること等、両者の連携の一層の強化を図るものとして明文化されました。

今後さらに児童虐待事案発生時に迅速に対応できるよう、我々法医学教室等と児童相談所や警察関係諸機関などとの関係構築を図り、より一層の児童虐待対応のための体制の整備を進める所存です。今後とも宜しく御願い申し上げます。

法医学の診断過程とは



問合せ先 法医学講座 教授室 TEL: 0853-20-2156





島大病院ニュース 2024年2月

ご報告

各清掃ボランティアの皆様にお世話になりました

よねはら まさたか
会計課施設管理室 室長 米原 昌隆

当院では、定期的に各種団体等の清掃ボランティアの皆様にお世話になりましたので、ご紹介します。



塩冶百寿会の皆さん

4月、9月、10月、11月の4回、大学正門から西門、東門に隣接した市道部分の清掃を行っていただきました。いつも丁寧に作業いただき雑草の発生を抑えていただいています。



塩冶場東クラブの皆さん

6月17日に、大学正門から正面玄関に至る分離帯植栽部分を中心に除草を行っていただきました。盛夏前に人の手によらないと除草できないところに作業していただき、大変助かりました。ありがとうございます。



天理教ひのきしん隊の皆さん

4月29日に東門からの進入路周辺の除草と運搬を行っていただきました。毎年、多くの方に参加いただき、丁寧に作業を行っていただいています。



JASしあね出雲女性部塩冶支部の皆さん

塩冶百寿会の活動日(10月7日)に合わせて、大学正門から西門、東門に隣接した市道部分の清掃に加わっていただきました。



慶人会の皆さん

5月と9月の2回、当院南側屋外庭園の除草、剪定、運搬を行っていただきました。例年以上の高温・多雨が続いたことから庭園といえない状況でしたが、旧出雲市各地区から参集いただいた皆様の手により景観が保たれ、病院敷地内ウォーキングコースを利用する入院患者さんに喜ばれました。



出雲土建株式会社と中国環境株式会社の皆さん

10月7日にヘリポート周辺、医学部会館からうさぎ保育所、小児家族用宿泊施設(だんだんハウス)の周辺の除草とその運搬を行っていただきました。広範囲にわたるうえにたくましく成長した雑草を相手に、プロの技を随所に発揮して瞬間にきれいにしていただきました。

当院及び周辺の景観を維持していただき、ありがとうございました。

問合せ先 会計課施設管理室 TEL: 0853-20-2549



2024年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2024年2月

ご報告



9月9日(土)
一日救急隊長を務めました



10月28日(土)
出雲ぜんざいフェアにゲストで参加しました



10月5日(木)
丸山達也島根県知事を表敬訪問しました

出雲観光大使は医師の卵

学務課学生支援・総務担当

こうだ ふさ

島根大学医学部医学科5年の幸田美沙さんが、Miss Japan Pageant 2022にて約5,000人の中から西日本グランプリを受賞しました。これをきっかけに、飯塚出雲市長より出雲観光大使に任命され、学業との両立を図りながらSNS発信やイベント・テレビ出演を通して地元を盛り上げています。

以下幸田さんからのコメント

私の思う、出雲の最も素晴らしいところは「ご縁を大切にできる心」です。今や私の財産である、この2年間で得た沢山の出会いと経験は、人と人との繋がりを大切にされる地元の方々のおかげです。

医療者は多忙な日々を送り視野が狭くなってしまうがちと言われる一方で、患者さんは皆異なるバックグラウンドをお持ちです。私は、自分の見解を押し付けず、その方が本当に必要とする社会的処方を出せる医師になりたいです。そのために、学生のうちに様々なコミュニティに足を踏み入れ、より多くの方の考えや価値観を知りたい。そんな思いから、私のモットーは【フットワークは軽く、返事はいつもYes or Yes!】。振り返ると、観光大使になって名刺交換をした方は300名以上にもなりました。

世間知らずで自信を持ってない自分を変えるため、また大好きな地元の人々への恩返し&恩送りのために挑戦を続ける日々。勿論勉強との両立は簡単ではありませんが、「時間はつくるもの」です。人と時間を大切に、今後も感謝の心を忘れることなく貪欲に成長の日々を紡いでいきます。

問合せ先 学務課学生支援・総務担当 TEL: 0853-20-2088



2024年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ

島大病院ニュース 2024年2月

参加受付中!
参加資格は大学生
クイズ観戦の応募はどなたでもOK!

島根大学主催 生理学クイズ日本大会 (PQJ2024) 開催します!

島根大学医学部医学科 3年 PQJ2024運営委員会
うえだ だいすけ 上田 大輔

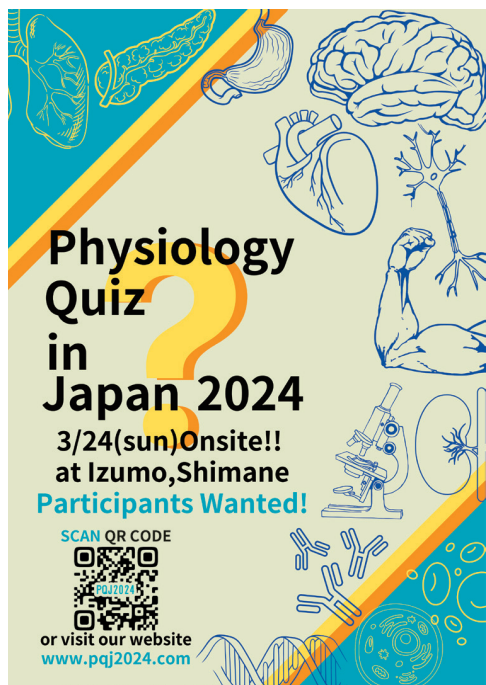
PQJ (Physiology Quiz in Japan) という大会をご存じでしょうか。世界各国の学生が生理学を中心とした基礎医学の知識を競い合いながら親睦を深めることを目的として、毎年日本国内の大学が主催しているクイズ大会です。

第8回目となる大会は、島根大学の主催で3月24日(日)に島根大学出雲キャンパスにて開催いたします。今大会にはスロベニアやインドネシアの大学からの参加応募もありました!

参加資格は大学生であることのみ、学部・学年は問いません。基礎医学の範囲のため低学年の方も心配無用です。基本的な英語力があれば回答できる問題を用意しているため英語が苦手でも大丈夫です。生理学、英語、クイズ大会、出雲 etc. どれか一つにでも興味がある方はぜひご応募ください。

参加登録は2月29日(木)までメールで受け付けております。ご質問などありましたらお気軽にご連絡ください。

皆様のご参加を心からお待ちしております。クイズの観戦の応募はどなたでも可能です。一緒にPQJを盛り上げましょう!詳しくはホームページ (<https://www.pqj2024.com>) をご覧ください。



問合せ先 **学務課学生支援・総務担当 TEL: 0853-20-2088**
参加登録受付 **メールアドレス: pqj2024@gmail.com**



ご報告

島大病院ニュース 2024年2月

ワークライフバランス週間 応募作品の表彰式を行いました

ワークライフバランス支援室

当院のワークライフバランス支援室は、例年「ワークライフバランス週間」の啓発活動の一環として、ワークライフバランスをテーマとした作品の職員募集を実施しており、今年度は「WLB川柳」及び「私の働く源写真」をそれぞれ募集しました。

今回も多数の応募の中から優秀作品等の選出を職員の投票及び病院長、医学部長などの執行部の各先生方により行い、12月26日(火)に「WLB週間応募作品表彰式」を開催しました(写真1)。当日は受賞者のほか、プレゼンターとして椎名病院長、石原医学部長をはじめ、各副病院長、副学部長及び病院長補佐、事務部長にもご列席いただき、賑やかに行われました。

今回も仕事や家庭に関する作品のほか、「ジェンダー」や「TikTok」をテーマとした昨今の世相や流行を想起させる作品が多く寄せられました。長期化したコロナ禍が私たちにもたらした影響は計り知れませんが、一方で「おうち時間」は大切な家族と過ごす時間を増やし、それぞれの日常生活や働き方を見つめ直すきっかけとなったかもしれません。

今後も職員ひとりひとりの「仕事と生活の調和」を見据えた支援に取り組んでいきたいと思っております。

写真1 WLB週間応募作品表彰式



川柳応募作品一覧

No	賞名	受賞作品	ペンネーム
1	石原医学部長賞	煙のため ほころぶ顔に ゆるむ紐	KKKS さん
2	和田副医学部長賞	退勤後 これから始まる ロスタイム	〇〇推しの子 さん
3	竹谷副医学部長賞	新時代 パパと娘で クッキング	春はあけぼのママ さん
4	大野副病院長賞	飾りじゃないのよ 有休は正しく取って 再起動	壮女B さん
5	金崎副病院長賞	助け愛 他部署の良さ知る 部署応援	匿名希望 さん
6	鬼形副病院長賞	「今日休み?」朝食メニューで 即ハれる	たんぽぽ さん
7	川上副病院長賞	胸張って どちらも充実 仕事と暮らし	みーちゃん さん
8	坂本病院長補佐賞	葉出す なのに私は 葉漬け	八・九階担当薬剤師 さん
9	渡部病院長補佐賞	涙ぐむ わが子が作った 味噌汁に	時間の圓のラビット さん
10	榎病院長補佐賞	気と心 配って改革 助け合い	2025年問題を考える会 さん
11	直良病院長補佐賞	久々の 父との風呂に 沸く我が家	サトシ・ナカモト さん
12	林病院長補佐賞	ナースから母へのスイッチ 女優超え	3児の母 さん
13	石村病院長補佐賞	職場にも 入れてください AI(愛)を	ブラレール大好きな息子のパパ さん
14	一瀬病院長補佐賞	二度とない 赤子の瞬間(とき)を 忘れまい	パパ育休中 さん
15	長井病院長補佐賞	週末は 愛犬と愛猫で チャージする	フンタ さん
16	鈴木病院長補佐賞	なぜななぜ? (仕事)出来るあの子が 5年で退職	なぜななぜ さん
17	浦田事務部長賞	「ありがとう」 疲れを癒す あいことば	スノードロップ さん

働く源写真応募作品一覧

No	賞名	受賞作品	氏名又はペンネーム
1	椎名病院長賞		福原 翔 さん
2	田邊副病院長賞		村上 真咲 さん
3	稲垣病院長補佐賞		澤田 悠里 さん
4	名越病院長補佐賞		おやしLOVE さん
5	菅野病院長補佐賞		どさんこ さん
6	藤谷病院長補佐賞		頭はどんな音? さん

問合せ先 **ワークライフバランス支援室 TEL: 0853-20-2015**



お知らせ



ご報告

転倒転落対策への取り組み

転倒転落対策ワーキング リーダー たてぬま たく 藤沼 拓
ふかみ たつや
 医療安全管理部 教授 深見 達弥

転倒転落の発生により患者さんが受傷をすると、本来の治療ができない、骨折等の合併症で体動制限(寝たきり)になる、入院期間が延長するなど問題が生じることがあります。

転倒転落対策は一元的には解決できない問題が多く、安心安全な療養環境を提供するために当院では椎名病院長の号令の下、2022年より転倒転落対策ワーキンググループが結成されました。看護師、医師、薬剤師、各療法士で職種、部署横断的に院内共通の対策を検討しています。

これまでの取り組みとして代表的なものは、(1)不眠時頓服指示において転倒転落リスクの低い推奨薬剤の周知、(2)入院中望ましい「はきもの」について患者さんへお知らせをし(図1)、患者さんにも転倒転落防止に参加していただいています。

まだ取り組みは始まったばかりですが、転倒による骨折等の重大な事柄は減少してきており、徐々に効果は表れてきています。引き続き、対策を進めていきます。



問合せ先 医療サービス課 医療安全担当 TEL : 0853-20-2066



令和5年度 島根大学優良教育実践表彰を受賞しました!

2023年12月27日(水)、当センターは令和5年度島根大学優良教育実践表彰を受賞しました(写真1、2)。島根大学優良教育実践表彰は本学の全学部全学科を対象にした取り組みであり、この荣誉ある受賞を機に、地域医療に貢献できる優秀な総合診療医の育成にさらに力を入れる所存です。

この数年、コロナ禍により学生たちの海外での学びが制限され、彼らの学びへの意欲に応えるため、我々はハワイ大学 HMEP (Hawaii Medical Education Program) との教育提携を実現させました(写真3、4)。この取り組みは教育の質を高め、学生たちに国際的な視野と経験を提供する新たなステップとなりました。

私たちセンターは、地域医療に貢献する医師の育成を目指しています。今回の受賞はその努力が認められた証として、大変誇りに思います。私たちは、地域社会や病院にとって価値のある医療人材を送り出すことに全力を尽くします。

この受賞を契機に、当センターとしては、地域住民が安心して過ごせるような医療サービスの提供を目指しています。地域の病院やクリニックとの連携を強化し、地域医療のさらなる発展に寄与したいと考えております。

最後に、この度の受賞に寄与して下さった全ての教員、学生、そしてサポートして下さった関係者の皆様に心から感謝申し上げます。今後も皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



問合せ先 総合診療医センター TEL : 0853-20-2217



ご報告

島根大学眼科ゴールボールチーム スサノオアイズの活動について

眼科 講師 ^{さの いちや} 佐野 一矢

ブラインドスポーツ（視覚障害者スポーツ）の一つであるゴールボールは、アイシェイドという目隠しをしてボールを投げ合い得点を競い合う競技です（写真1）。目隠しをすることで晴眼者（眼に障害がない方）も同じ条件で試合に参加できるというブラインドスポーツならではの特徴があります。

我々は全国に先駆けて眼科医療従事者領域におけるゴールボールチーム、島根スサノオアイズを立ち上げました。眼科医の役割はもちろん病気を治すことですが、同時に視覚障害者の方と社会を繋ぐという役割も担っています。眼科医療従事者主導でチームを作り、まずは自らブラインドスポーツを体験することで視覚障害者の方が抱える困難を実感するところから始めました。

コロナ禍での船出で予定通りにはなかなかいきませんでした。全国の様々な大会に出場できるまでに少しづつではありますが結果が出るようになりました。2023年6月には眼科医療従事者による全国大会を出雲市において初開催しました。同8月には新たに視覚障害者の選手もチームに加わりました。2023年度からは島根大学医学部附属病院高度医療推進等基金のサポートもいただいています。

今後もゴールボールというブラインドスポーツの裾野を広げ、晴眼者と視覚障害者の垣根を取り払える、そんな役割を担える存在でありたいと思っています。

問合せ先 眼科学講座 事務室 TEL: 0853-20-2284

島根スサノオアイズ

2021年
2月結成

練習 1~2回/月（金曜日18:00~20:00）
上塩治スポーツセンターにて

活動記録

- 2021年11月 ゴールボール交流会(滋賀県ゴールボール協会と)
島根県邑南町
- 2022年10月 関西地区ゴールボール交流大会
兵庫県神戸市
- 2022年12月 兵庫県ゴールボール大会
兵庫県神戸市
- 2023年1月 四国チャレンジゴールボール大会
愛媛県松山市
- 2023年2月 埼玉ゴールボール大会
埼玉県所沢市
- 2023年6月 全国眼科領域ゴールボール交流大会
島根県出雲市
- 2023年10月 日本ゴールボール協会主催アドバンスカップ全国大会
埼玉県所沢市
- 2023年11月 中国チャレンジゴールボール大会
島根県邑南町
- 2023年12月 兵庫県ゴールボール大会
兵庫県神戸市



アイシェイド(目隠し)を着用しボールを投げ合いゴールを競う



2024年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ

心不全治療と仕事の両立支援について

循環器内科 医師 ^{たなべ じゅんや} 田邊 淳也
地域医療連携センター 社会福祉士 ^{いけだ まりな} 池田 真里奈

療養・就労両立支援の取り組みが、がん、脳血管疾患、肝疾患、指定難病に加えて2022年度から心疾患、糖尿病、若年性認知症と対象が拡大しています(図1)。当院循環器内科では、心不全の患者さんを対象に治療と仕事の両立支援を行う体制作りに取り組んでいます。

心不全によくある誤解として「楽になったから、心不全は完全に治癒した」「活動制限やリスクのため仕事は辞めなければいけない」といったものがあります。心不全は心臓の機能が時間とともに低下していくことで徐々に進行する疾患ですが、適切な治療により症状の進行を遅らせることが可能です。

心不全の治療には内服薬の服用だけでなく、適切な運動や食生活の改善も重要ですが、仕事を続けるためには、定期的な休憩の取り方、ストレス管理、作業内容・作業環境の調整など、職場の条件と健康状態に応じた具体的な配慮が必要になります。また心疾患は多岐にわたり、その重症度も患者さんによって異なるため周囲の理解を得られないことが多くありますが、島根産業保健総合支援センターや当院の両立支援コーディネーターが治療と仕事の両立について、医療状況の説明、職場における配慮事項の提案、必要に応じた職場との調整を行うことで患者さんを支援します。両立支援の体制作りにあたり、島根産業保健総合支援センター仲佐菜生子産業保健専門職には、多大なご支援を賜り感謝申し上げます(図2)。

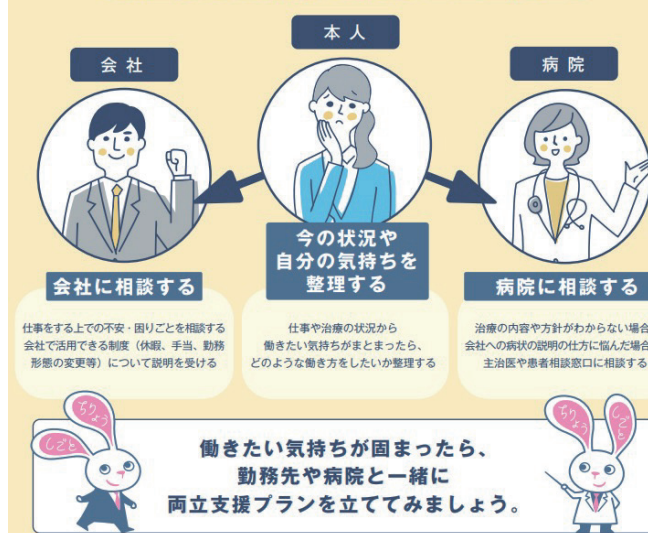
心不全の治療と仕事の両立に悩まれる際は是非ご相談下さい。

図1 厚生労働省「治療と仕事の両立支援ナビ」より

「治療」と「仕事」の両立に悩んだら

病気の治療は、体調の変化や薬の副作用、定期的な通院など、負担は少なくありません。治療を受けながら働き続けたいけれど、誰にも相談できずに一人で悩んでいますか？

まずはどこに相談すればいいですか？



働きたい気持ちが固まったら、勤務先や病院と一緒に両立支援プランを立ててみましょう。

厚生労働省「治療と仕事の両立支援ナビ」▶▶



図2 連絡先

島根産業保健総合支援センター
0852-59-5801

病院へのお問い合わせ先
・島根大学医学部附属病院 0853-20-2518
島根産業保健総合支援センター出張相談窓口
毎月第4木曜日 13:00 ~ 16:00
がん相談支援センター(外来診療棟 3F)

治療と仕事の両立支援

問合せ先 循環器内科 医局 TEL: 0853-20-2249



2024年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





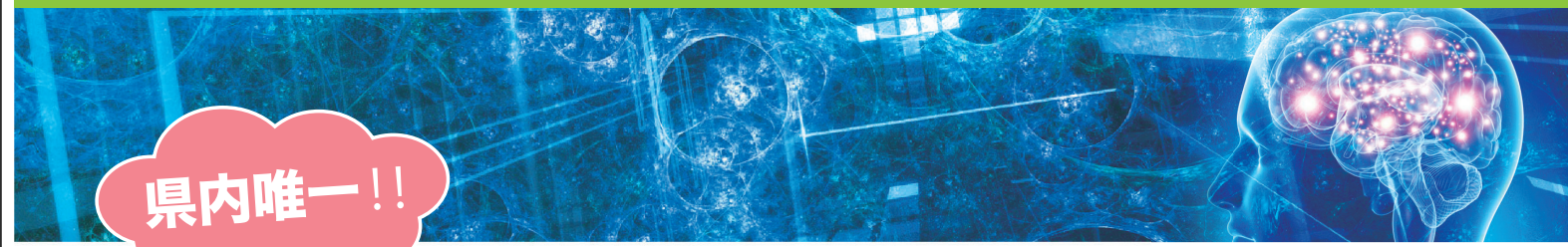
ご報告

島大病院ニュース 2024年2月



お知らせ

島大病院ニュース 2024年2月



県内唯一!!

認知症新薬レカネマブ保険適応のお知らせ

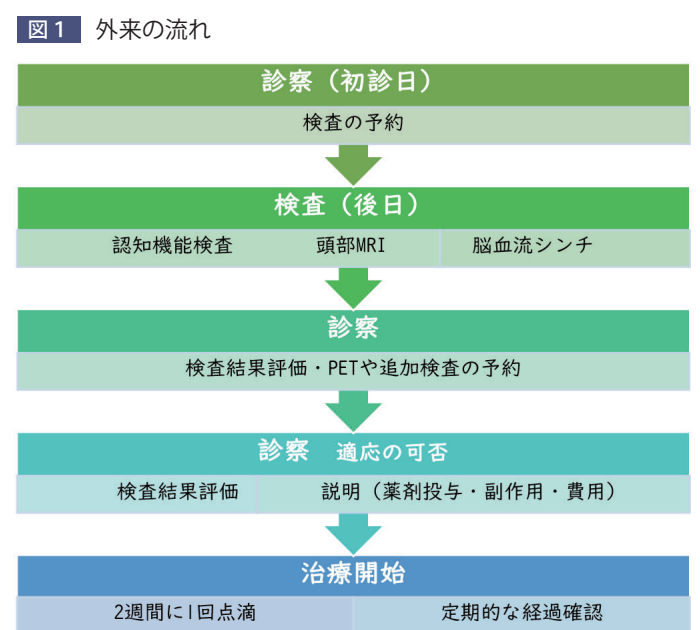
基幹型認知症疾患医療センター センター長 ながい あつし 長井 篤

「アルツハイマー病による軽度認知障害及び軽度認知症の進行抑制」を目的として、2023年12月下旬に、レカネマブが保険適応となりました。本薬剤は、アミロイドβに結合する「ヒト化抗ヒト可溶性アミロイドβ凝集体モノクローナル抗体」で、18ヶ月の比較試験の期間において数ヶ月の進行抑制がみられました。

65歳以上の高齢者の5分の1にものぼる方が認知症となることが予想される日本の現状において本薬剤に対する期待は大きく、安全に使用していくためには注意も必要となります。当センターでは、当院の患者さんがレカネマブ使用の対象となるかの鑑別診断を慎重に行ってまいります。

対象となるのは、長谷川式認知症スケールで概ね18点以上かつアルツハイマー型の認知機能障害が疑われる患者さんです。詳細な認知機能検査、頭部MRI検査、脳血流検査、PET検査または髄液検査によるアミロイドβ沈着の評価などの手順を経て、初めてレカネマブ注射の対象に合致するかどうか分かってきます(図1)。対象になり得る患者さんは、ごく軽度のもの忘れの方に限られ、当院もの忘れ外来患者さんの2割程度と考えられております。

また、レカネマブは注射後1~2ヶ月くらいで脳が腫れたり、脳に小さな出血が起こる副作用も考えられ、さらに投薬の期間については2週間に1回の点滴治療が18ヶ月間行われる予定で、長期の通院が見込まれます。当センターもの忘れ外来では、もの忘れが気になる方について鑑別診断や診療を継続し、レカネマブ治療について患者さんに十分な情報提供を行いながら加療を行ってまいります。当センタースタッフが相談対応等も行っております。お気軽にご相談ください。



遺伝医療の啓発活動

『Gene Awareness Week大作戦』開催報告

臨床遺伝診療部 認定遺伝カウンセラー あらき こ 荒木 もも子
おおし ひろこ 認定遺伝カウンセラー 大越 寛子

11月は遺伝カウンセラー啓発月間です。臨床遺伝診療部では11月5日(日)~11日(土)にかけて、遺伝医療の啓発活動『Gene Awareness Week 大作戦』を行いました。

11月5日(日)、くにびきメッセで開催されたしまね大交流会にて、ブースを出展しました(写真1)。参加者の多くは就活中の大学生や進路を考える高校生で、遺伝医療に興味を持っていただけるよう、未来の遺伝医療の倫理的課題についてともに考えました。

11月7日(火)より2週間、当院の市民ギャラリーにて「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展を開催しました(写真2)。当事者さんからのメッセージは深く考えさせられるものでした。設置していたパンフレットはすべてお持ち帰りいただけ、観覧された方々も興味を持ってくださったと感じております。

11月11日(土)、当院にて午前午後の二回、イベントを開催しました。午前中は、さんいん遺伝医療ネットワーク発セミナーvol.1『遺伝医療の世界へようこそ ~症例を通して一緒に考える~』を開催し、山陰地方で遺伝医療に携わるスタッフが集まりジレンマセッションを行いました(写真3)。午後は、島根県出身の映画監督錦織良成氏を講師に迎え、がん医療従事者研修シンポジウム「遺伝医療を知り、がん死を減らす!!」を開催し(図1)、島根の文化の中で遺伝医療に対しどのように体制整備を行うといいのか、貴重なディスカッションを行うことができました。

本企画にご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。今後とも、私たちの活動にご協力いただけますようお願い申し上げます。

問合せ先 臨床遺伝診療部 (小児科外来) TEL : 0853-20-2383

図1 Gene Awareness Week 大作戦

「遺伝医療を知り、がん死を減らす!!」

シンポジウム

2023年 11月11日(土) 14:00~16:00

場所: 島根大学医学部附属病院 セラ様 だんだん ※Zoomによる同時配信あり

対象: 島根県内の医療従事者・当事者団体の方

参加費 無料

司会: 島根大学医学部附属病院腫瘍内科 田村研治 臨床遺伝診療部 荒木もも子

講演 ① 14:02~14:35 『遺伝を知ることでがんを予防する』 ~地域医療・家庭医療としてのがん予防 in 島根~ 岡山大学病院 がん遺伝子診療科 臨床遺伝学分野 教授・臨床遺伝専門医 平沢 晃 氏

講演 ② 14:35~14:50 『島根県における遺伝性腫瘍患者さんへの関わり』 ~心理社会的支援の必要性~ 松江市立病院 ゲノム診療部 看護部長・認定遺伝カウンセラー 竹下 美保 氏

講演 ③ 14:50~15:20 『島根に生きる人に継承されるものとは』 島根県出身 映画監督 錦織 良成 氏

15:30~15:55 全体討論

申込み方法: こちらからお申込み下さい ※締切:11月6日(月)17:00 URL: <https://forms.gle/KU6Kv1XU5oNuSv46> 申込みQRコード

お問い合わせ: 島根大学医学部附属病院 臨床遺伝診療部 E-mail: shimamedic@med.shimane-u.ac.jp 事務担当: 島根大学医学部医療サービス課 がん診療担当 TEL: 0853-20-2067 E-mail: gankyo@med.shimane-u.ac.jp



お知らせ



婦人科疾患に対する ロボット支援下手術を再開します！

産科・婦人科 診療科長 かなさき はるひこ
金崎 春彦

婦人科臓器（子宮、卵巣等）の良性及び悪性疾患に対する婦人科手術は 1990 年代半ば以降、開腹手術に代わり腹壁の 4 か所程度の穴からカメラ及び鉗子を入れて手術を行う腹腔鏡手術が主流となりました。現在当科においても、婦人科臓器の摘出の多くは腹腔鏡手術によって行っています。その後、手術支援ロボット（da Vinci）が米国で開発され、高解像度の鮮明な 3D モニター下で鉗子操作の自由度が高い、高精度の手術がロボット支援下で提供できるようになりました。

2018 年からは婦人科領域でもロボット支援下手術は保険適応となっていますが、現在は①婦人科良性疾患における子宮摘出、②再発リスクの低い早期子宮体癌に対する手術、③骨盤臓器脱に対する仙骨脛固定術をロボット支援下で行うことが出来ます。これらの疾患に対する手術の多くがロボット支援下で可能です。もちろんこれらの手術は開腹術、腹腔鏡手術でも可能ですが、個別の疾患に応じて最適な術式を選択して参ります。

一時中断していたロボット手術をこの度診療体制を整え、再開いたします。私を含め 4 名がロボット手術の certificate を取得しており、全員が婦人科内視鏡技術認定医でもあります。また当院には婦人科腫瘍、生殖医療、女性医学における専門医が多数在籍しています。

院内の手術支援センター、ロボット支援手術推進センターと連携して、産科・婦人科では引き続き安全・安心な産婦人科医療を提供して参ります。



問合せ先 問合せ先 産科・婦人科外来 TEL : 0853-20-2389

